

1 渡辺 竜彦 議員（志政会）

- （1）坂井市の学童保育の現状は
 - ・本市に学童保育を希望しても利用できない児童はいるのか。
 - ・施設数は学童保育の需要者に対して十分足りているのか。
- （2）坂井市の高齢者世帯の現状は
 - ・本市の高齢者世帯の割合はどれくらいあるのか。
 - ・本市の30歳以上の未婚率はどのようになっているのか。
 - ・今後、予想される本市に高齢者世帯・高齢者の一人暮らしが増えていくことに對し、市はどのような見解をもっているのか。
- （3）園児の園外活動（散歩）での事故防止対策は
 - ・市は園外活動にあたっての危険な場所がないのか、しっかりと確認はできているのか。
 - ・市は園外活動（散歩）の際に、園児や保育士を事故などから守るための地域との連携は取れているのか。

2 辻 人志 議員（政友会）

- （1）橋梁の予防保全について
 - ・市が管理する橋梁について、緊急に修繕を要する橋梁の有無および建設から50年以上経過している橋梁の本数は。
 - ・定期点検および補修工事の進捗状況と今後の進め方を問う。
- （2）地域医療を守る取り組みについて
 - ・三国病院事務局長は、市立三国病院の現状と課題をどのように考えているか。また課題解決に向けた取り組みを今後どのように行っていくのか。

3 川端 精治 議員（志政会）

- （1）坂井市の英語教育について
 - ・今年度から英語教科指導員を配置した目的は。
 - ・英語教科指導員の具体的な活動内容は。
 - ・外国語（英語）の評価についてどのように考えているか。
 - ・小学校での外国語（英語）が教科となったことで、今後、小中連携が重要になると考えるが所見は。
 - ・外国語（英語）が教科化となったことにより、下校時のバス時刻変更など影響はなかったのか。
 - ・県立高校入試の英検加点が来春も継続される予定である。今年度の中学校での取り組みは。
- （2）福井県学校業務改善方針および部活動の在り方に関する方針策定による坂井市の対応について

- ・福井県学校業務改善方針では、2021年度までに時間外勤務月80時間以上の教員をゼロにすること、教員の年次休暇平均取得を11日以上にすることを目標にしているが、今後、坂井市として教員の働き方改革をどのように推進していくのか。
- ・坂井市も策定した部活動の在り方に関する方針の具体的内容は。
- ・県が策定した学校業務改善方針によると、2021年度までに中学校の部活動数を教員数のおおむね2分の1になるよう見直しを行うとなっているが、市内5つの中学校はどのように対応していくのか。

4 伊藤 聖一 議員（志政会）

（1）ふるさと納税制度における地場産品について

- ・ふるさと納税の返礼品については、地場産品に限定された。地場産品に魅力ある産物・製品の乏しい自治体から不公平との指摘があり、その指摘に対する方策として、都道府県より認定を受けたものは他自治体でも地場産品の返礼品と扱われるようになったと認識している。市内地場産品が県内他市町の返礼品として活用される機会と思うが、所見を伺う。

（2）三国病院改革の考えについて問う

- ・三国病院の運営形態は「公営企業法の一部適用」である。病院収支改善の観点から、最善の運営形態をどのように考えるか。
- ・地域包括ケア病床の導入以降、三国病院急性期病床以外からの転院はどれくらいあったか。
- ・DPCについて、導入の可否についてどのように考えるか。
- ・自治医大病院では、医師の作業軽減のために、事務職員を大幅増員することを決めた。同様の方針は考えられるか。
- ・看護師確保の観点から、院内保育は重要施策であると思う。利用条件をどのように定めているか。また、利用実績と利用拡大についてはどのように考えるか。
- ・看護師インターン制度の実績はどうなっているか。

5 後藤 寿和 議員（志政会）

（1）子ども医療費助成制度18歳まで拡充を

- ・県に対して要望は続けているのか。またどのように要望書を提出しているのか。
- ・保育料無償化に伴い、坂井市多子世帯子育てすくすく支援商品券の見直しをしたらどうか。
- ・見直しをした上で、子ども医療費助成制度を高校生まで拡充したらどうか。

（2）心のケア・予防のために、市内に居場所づくりを

- ・総合相談窓口が開設されて以来どのような質問が多かったか。
- ・市内に引きこもりといわれる事例は何件あるのか。
- ・市に心の悩みを相談しに行きにくいとよく聞くが、市としてはどのように相談できるような環境や本人または家族の人を向かわせられるように取り組んでいるのか。
- ・子どもの悩みを親が抱えている場合も多数あると聞く。親が不安を吐き出せる場をつくることも急務だと感じるが、市としてはどのように取り組んでいくのか。

- ・市内に、どこに相談したらいいのかわからないこと、健康に関することや不安なこと、家族の悩み等を、気軽に相談できる誰もが入りやすく居心地の良い居場所づくりをして、市内に何カ所か設置してはどうか。

6 山田 秀樹 議員（志政会）

（１）W i - F i 環境の整備・エリア拡大について

- ・市内の無料W i - F i スポットは把握できているのか。
- ・三国駅や三国港駅、丸岡駅、西長田ゆりの里駅など、駅やバス停への無料W i - F i の設置状況や設置予定は。
- ・観光拠点、防災拠点においての最低必要数をどう捉えているか。
- ・A P 接続履歴から得られる利用者行動を可視化することで、観光戦略や防災、施設利用促進に役立てW i - F i を生かした政策を進める自治体も多い。坂井市の「S a k a i f r e e W i - F i」14カ所で、そのような運用は可能か。
- ・若者へのアピールやインバウンド誘致に向け、東尋坊や竹田などの民営無料W i - F i スポットと公営スポットを共通アプリで認証連携し、市全体の動向をビッグデータとして蓄積、把握する必要があると考えるが。
- ・「S a k a i f r e e W i - F i」は営業時間とともに運用が停止すると聞く。夜間に災害が発生した場合、誰が起動するのか。電話回線は輻輳すると不通に至るが、W i - F i は災害に強い。主要観光地やコミュニティセンター周辺でのW i - F i の24時間稼働は市民や来訪者に大きな安心を与えると考えるが。
- ・自動販売機にA P が設置できる。公設W i - F i の活性成功例をアピールし、民設民営の機運を醸成、補助を設けてはどうか。公・民全てのW i - F i スポットを網羅した坂井市全体マップを作成、配布、看板を立て来訪者にどんどんアピールすべきだと考えるが。

7 川畑 孝治 議員（政友会）

（１）コウノトリの巣塔を建てては

- ・コウノトリは自然環境のバロメーター、今回のひなの誕生をどのように考えるか。
- ・現在の場所に落ち着くまで、40回位巣作りをしたと聞く。ひなが巣立ったら、巣塔を建てては。

（２）ロタウイルスワクチン接種の公費助成をしては

- ・医療費窓口無料に対する結果についてどのように考えるか。
- ・任意予防接種の全額補助はできないか。
- ・ロタウイルスワクチン接種を全額補助もしくは一部補助できないか。

8 南川 直人 議員（志政会）

（１）市内、川の流れの現状

- ・市内を流れる河川、特に中小河川について水位の変化、あるいは水質の変化の検査データはあるのか。
- ・環境面において、中小河川に、魚やホタルが生息している、または戻ってきている

河川はあるか。

- ・秋から冬期間の市内河川の流量が、春からの流量に比べ極端に少ない。対策はないか。
- ・令和２年度にハザードマップが更新されると聞いているが、公共施設で洪水時に危険な個所はないか。ある場合、避難の指示、方法に改善が求められるがどうか。また、介護施設において、浸水想定区域２メートル以上の区域に立地する施設はないか。ある場合、１階からの避難をどのように指導するのか。
- ・市街地浸水対策として、逆流防止施設を設けている河川が全国にあるが、実施できないか。
- ・水害対策として中小河川の監視のため、水位計測システムを導入することはできないか。このシステムで、市内小規模河川の水位を網羅的に把握することにより、職員が目視で水位を確認することから、災害対策本部にしながら先を見越した対応ができると思うがどうか。

(２) 平成３０年度学術調査を終えた丸岡城のＰＲ

- ・丸岡城内にある日本最古の天守閣とある看板や、観光用パンフレットの中の文章を、観光協会や、県との調整も含めどのように対処するのか。
- ・今回の調査研究報告を広く市民の皆様に、早く説明すべきと考えるがどうか。

９ 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団）

(１) ２０２０年ＮＨＫ大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公「明智光秀」と深い関係にある丸岡町長崎「称念寺」の情報発信、ＰＲに努め、観光に生かすこと

- ・文化課や観光産業課、シティセールス推進課などの連携を含め、市としての情報発信、ＰＲをどのように考え、観光に生かしていくのか。
- ・以下の点について提案し、実践を求める。
 - ①称念寺境内に寺小屋（資料館）をつくり、資料の展示をする。
- ・坂井市民への情報発信のために、以下の点について提案し、実践を求める。
 - ①すべてのコミュニティセンターで、学習会を開く。
 - ②小中学校の校外学習に称念寺を入れる。
- ・観光資源としての取り組みとして、以下の点について提案し、実践を求める。
 - ①商工会、観光協会、商店連盟などでそれぞれの立場や個性を生かした取り組みをしてもらう。
 - ②観光会社へ「丸岡城」と「称念寺」をセットで案内してもらう。また、観光ボランティアで称念寺を紹介し、そのための交通手段も考えること。
 - ③福井戦国武将の会「お弔いツアー」を利用する。
 - ④戸越銀座にあるアンテナショップやＳＮＳを活用しての発信を。
- ・丸岡城、称念寺などに関わりの深い「豊原」の調査に取り組んでいくこと。

(２) 私たちにできる使い捨てプラごみ削減生活を推進へ

- ・「私たちにできる使い捨てプラごみ削減生活」チェックリストをつくり、各家庭や学校に配布し、自分たちにできることから取り組み、プラごみと温暖化問題の社会的啓蒙、教育の抜本的強化を求める。

- ・環境問題として生ごみ処理機導入やエコドーム設置をすべき。

10 近藤 哲行 議員（政立会）

（1）これからの防災対策について

- ・全国的にレベル3、4、5の基準があるが、坂井市のレベル3、4、5の基準を具体的に伺う。
- ・各地区の河川の氾濫、土砂崩れなどの警戒レベルはどのように判断されるのか具体的に伺う。市民への非難勧告、避難命令はどのような方法でなされるのか。レベルの判断はどのような機関でなされるのか。

（2）今ある公園をもっと有効に

- ・国体、オリンピックの種目になるスケボーの練習場をつくっては。
- ・人々の交流の場所ともなるペットが遊べるドッグランの施設をつくっては。

11 永井 純一 議員（公明党）

（1）交通弱者の生活、外出支援について

- ・現在、議会で地域公共交通対策特別委員会を設置し議論している。議会と行政が一体となり、プロジェクトチームを結成し、知恵を出し合い調査研究し実行可能な施策の結論を早急に出していくことはできないか。
- ・子どもたちが巻き添えになる悲惨な事故も発生している。大事な命を守るため伺う。災害や交通事故などから子どもの命を守るため、小学生への通学用ヘルメットの配布と着用を提案するが、いかがか。

（2）食品ロスについて

- ・食品ロスについての見解と推進計画作成の取り組みをどのように考えているのか。

（3）国産の液体ミルクを災害備蓄品に導入へ

- ・国産液体ミルクを災害備蓄品に導入すべきと提案する。考えを伺う。

12 田中 千賀子 議員（政和会）

（1）ごみの減量化について

- ・市のごみの現状について、合併時から1人当たりのごみの量は増えているのか。また、ごみの内容はどのように変化しているのか。
- ・レジ袋有料化についてスーパーなどは浸透しているが、法が整備されると市の計画を作成することになるがレジ袋有料化について市の考えを伺う。
- ・県産六条大麦の茎を使ったストローを製作している農業団体がある。このような事業を実施した場合、市として補助する考えはないか。
- ・清掃センターでは10月1日から一般廃棄物を持ち込む場合の処分手数料が見直しされるが、市の特別集積地や事業者はどのようになるのか。
- ・不法投棄がなくなっていない。現状と対策を伺う。
- ・2017年12月議会の一般質問でエコドーム開設について質問を行った。調査研究していきたいとの答弁であったが、進捗状況について伺う。

（2）フードバンク活動に対する市の支援について

- ・資源循環型社会を支えるフードバンク活動支援について伺う。

1 3 三宅 小百合 議員（政友会）

（1）女性が輝く坂井市の取り組みについて

- ・イクボス宣言後の取り組みと波及効果は。
- ・坂井市は全国トップの共働き率であるが、女性管理職率はどのようになっているか。
- ・また、働く女性の育児支援、ゆとり創出はどのようになっているか。
- ・坂井市の女性活躍のひとつとして丸岡R U C Kがあるが、市として今後の支援はどのように考えているか。

1 4 松本 朗 議員（日本共産党議員団）

（1）市長の経済認識

- ・6月7日の景気動向指数「判断」をどう受け止めるか。
- ・今後、市民生活を支える施策はあるか。どう適切に対応するのか。
- ・子どもの医療費の助成事業がある。市・県の事業のほか、国の段階で、就学前の児童の医療費本人負担は、2割に軽減されている。坂井市が行っている中学校卒業まで、政府の段階で2割負担になり、県も同様に助成事業を行うなら、昨年度実績で、坂井市の財源はいくら軽減されるか。
- ・軽減額は、坂井市が、その分多く負担しているとも言える。多くの事業が展開できる財源になる。市長として、政府、県に強く要求するべき。

（2）高齢者が安心して暮らせる街になるために

- ・高齢者単身世帯は、20年前に比べて2倍に増加している。比較的元気な高齢者が、空き家を使って共同生活を行うグループホームに支援するなど検討したらいいか。
- ・コミュニティバスの改善が常に議論されているところだが、高齢者が積極的に利用していただくことがまず重要であると考え。75歳以上の高齢者、70歳以上の低所得者の利用を無料とするシルバーパス制度の導入によって、よりバスの利用者を増加させることを求める。
- ・コミュニティバスの利用で、大学病院に朝行けないというのは、多くの通院者の不便となっている。運行ルートの改善を求める。
- ・協会健保と比較して、あまりに高負担な国保制度の改革が必要との認識はあるか。
- ・昨年度における国保会計の単年度収支はいくらか。また今後の見通しは。黒字を活用すれば、国保税の軽減、子供の均等割の減免、資産割の廃止などが可能。どう考えているか。3月の代表質問の答弁では、子供の均等割の減免を行わない理由としては、同意できない。そもそも、子供に対する均等割が、子育て支援に逆行していると考えないか。政府もこうした減免には一般会計からの繰り入れを認めているのではないか。

（3）自立支援と市営住宅

- ・住宅困窮者に対し、低廉な住宅を提供することが支援である。税の滞納を理由に入居を拒否すべきでないのではないか。
- ・自立支援のために、すべての関係する部局と支援の障害となっている基準などを点検し、見直しを図ること。

15 戸板 進 議員（志政会）

（1）高齢者のごみ出し支援について

- ・坂井市では、行政区、NPO、団体など、高齢者のごみ出し支援を行っている実績があるのか。あるとすればどのような支援を行っているのか。
- ・市では、介護保険総合事業の訪問型Bを本年度より実施していると聞いているが、具体的にどのように実施しているのか。また、有償、無償のボランティア等による住民主体の高齢者のごみ出し支援が必要と考えるが、訪問型Bの対象になるのか伺う。
- ・丸岡地区が行っている拠点方式の資源ごみ回収について、いくつかの行政区にまたがっている地区では、今後ますます高齢者の資源ごみ出しが困難になると思う。どのような対策を講じるのか。